



ハウス内には撮影スポットもあり、いろんな楽しみ方ができる
＝杵島郡江北町の「花祭いちごの谷」



右：自家製苺シロップのいちごのソーダ(450円)、左：いちごのアイスカップ(420円)。ＪＲ江北駅の直営ショップ「いちごＣＡＦＥ」で購入できる



ハウス内では「さがほのか」「いちごさん」のいちご狩りが食べ放題で楽しめる＝杵島郡江北町の「花祭いちごの谷」

いちご狩りを満喫 駅併設のカフェで絶品スイーツも

information

花祭いちごの谷

住 / 杵島郡江北町山口 6815
電 / 090-2159-1515
営 / 10:00 ~ 16:00 (最終受付は 15 時)
体験時間 40 分
【料金】小学生以上：2,100 円
4 歳から未就学児：1,000 円
3 歳以下：無料
ＨＰ / <https://www.ichigonotani.com/>
電話またはホームページから WEB 予約
※土日は 1 週間前までの予約がおすすめです

「おいしいですよ」。唐島さんが教えてくださいました。大きい実ほど熟した時間が長くおいしくなるそうです。

ハウスの中は、受付のある手前に「さがほのか」、真ん中から奥には「いちごさん」が栽培されています。「いちごさん」は果肉の赤みと香りが強く、「さがほのか」は優しい味わいで酸味が少ないのが特長です。佐賀を代表する二つの銘柄いちごの食べ比べができ、大満足です。いちご狩りは5月のゴールデンウィークまで楽しめます。

最初に紹介した駐車場の一角に直売所があり、その日の朝に収穫されたとびきり新鮮なイチゴが購入できるようになっています。

帰り道は、ＪＲ江北駅にある「花祭果実」の直営ショップ「いちごＣＡＦＥ」に立ち寄り、「自家製苺シロップのいちごのソーダ」(450円)と「いちごのアイスカップ」(420円)をいただきました。ソーダの方は、カップの中に凍らせた大粒イチゴが何個も入っており、甘くておいしいソーダを最後まで冷たい状態でいただきました。



花祭いちごの谷 (杵島郡江北町)



念し、観光農園を始めて4年目です。農業や化学肥料をできるだけ使わず、健康な「王様のいちご」に育て上げています。台湾輸出も手掛けていますが、輸出基準は厳しく、それが残留農薬なしで安全安心であることの証明になっているそうです。

それでは早速、いちご狩りです。食べ放題になるのは40分間。ハウスの中には真っ赤なイチゴがたくさん実っており、甘い香りも漂っています。目を凝らし、「あっ、これだ」と見つけた大粒を口に運ぶと、とびきり甘くジューシーでした。「ヘタの下」の白い部分が少なく、ヘタのところまで赤いのがよく熟しているそうです。

ＪＲ江北駅からだと、県道35号多久江北線を多久方面へ7分ほど。花祭ゴルフ倶楽部の入り口を過ぎると、右手に広い駐車場と案内看板、そしてその奥にビニールハウスが見えてきます。「花祭いちごの谷」は、家族連れなどがいちご狩りを楽しめる観光農園です。



イチゴはヘタのところまで赤いものがよく熟している

豊かな自然に恵まれた佐賀県内には、春らしい雰囲気を感じることができる場所がいくつかあります。特別な場所でもなく、日々の暮らしに根付いたところで「ああ、春だなあ」と思える情景に出くわすことも多く、ふるさとの素晴らしさを実感します。

よく晴れた3月の日曜日、鉄道ファンの友人と伊万里市山代町久原のMR松浦鉄道・久原駅に向かいました。お目当ては、線路わきに咲く菜の花と列車の撮影です。事前のインターネットの情報では、いつもの年に比べて菜の花が少ないということでしたが、春本番を迎えて盛り返したのでしょうか。線路わきの両方が、たくさんの黄色い菜の花で彩られていました。

MR西九州線の列車は、上り下りとも1時間に1本ほどです。さわやかな春風を感じつつ、列車の到着を待ちます。キンコンカンコンという到着音が聞こえると、間もなく列車がホームに滑り込んできました。伊万里方面に行く上りの列車は黄色で、夢中でシャツ

菜の花と列車

MR 久原駅

(伊万里市山代町)

ふるさとの自然の豊かさ実感



駅に到着した列車。線路わきには菜の花が咲き誇っていた＝伊万里市山代町のMR久原駅



上りの列車は黄色、下りの列車は白色と赤色が主体だった



ターをぎりました。続いてやってきた松浦方面への下りの列車は白色と赤色が主体でした。帰り道は青空の下で輝く伊万里湾大橋なども撮影しました。

MR西九州線沿いでは、久原駅だけでなく、お隣の鳴石駅なども菜の花で彩られています。伊万里市内には写真ファインダーに愛されている絶景ポイントが多く、JR筑肥線沿いでは、森田芳光監督（故人）がほれ込み、映画「僕達急行A列車で行こう」（2012年公開）のロケ地となった駒鳴駅もいっ雰囲気です。

今回のMOTEMOTEさが4月号の締め切りは3月半ばでした。本当は、菜の花とともに桜のトンネルの下を通る列車をご紹介したかったのですが、それはありませんでした。3月末から4月初旬にかけて、久原駅のホーム周辺には桜のピンクも加わっているはず。もう一度足を延ばし、ぜひ来ようと思いましたが、時間が許すのなら、列車の車窓から風景を眺めるのもよさそうです。



白い部分がブーゲンビリアの花

くるめブーゲンの森

(久留米市合川町)

佐賀市から車で50分ほど。「くるめブーゲンの森」は、久留米市合川町の住宅街の中にある、知る人ぞ知る隠れ家的な観光植物園です。昨年4月にオープンし、間もなく1年。その名の通り、熱帯花木のブーゲンビリアを観賞することができ、ますが、これから4、5月が一番の見ごろとなります。

訪ねると、その広さと充実ぶりに驚かされます。室温10度以上に保たれた温室の中には、赤、ピンク、紫、オレンジ、白などさまざまな色のブーゲンビリアが咲き誇っています。品種でいうと、約20種類あるそうです。「ブーゲンビリアの

園内はインスタ映え間違いなしの写真スポットがいっぱいあります。ブーゲンビリアの美しさはもちろんですが、空色の扉があったり、ブランコがあったり…。「ブーゲンビリアの花言葉は情熱。キャッチフレーズを『情熱開花』としています。が、ここから地元久留米を盛り上げたい

という思いも込めています」と小山さん。苞は散っても美しく、瓶の中に入れてドライフラワーのように楽しむこともできるそうです。「きれいなものにはとげがある」と言われますが、ブーゲンビリアのとげは、花芽になりきれなかったものが変化しただけだそうです。

施設の魅力は、ほかにもいっぱいあります。併設の沖縄家庭料理店「綾門」では、プレートランチ（税込み1500円）が人気で、たくさんの種類の沖縄料理が味わえます。敷地内には「天神木神社」、源泉掛け流しの足湯も整備されています。一日ゆったりと過ごせそうです。



赤、ピンクなど、さまざまな色のブーゲンビリアが咲き誇っている＝久留米市合川町の「くるめブーゲンの森」



ブランコなど写真スポットもいっぱい設けている



鮮やかな赤 住宅街の隠れ家的な植物園

information

くるめブーゲンの森

住 / 福岡県久留米市合川町 1333-1
 電 / 080-3941-4187
 営 / 10:00～18:00 (綾門は 11:00～15:00)
 休 / 第4火曜・水曜
 【料金】大人 600 円、高校生以下 300 円
 ※幼児無料、団体割引有り (15 名以上)
 ※足湯のみの利用は無料
 I G / kurume.bougain.no.mori